

※一部非公開

令和五年度入学試験問題 (前期日程)

国語

教育学部 学校教育教員養成課程

小学校教育コース 教科教育専攻 を受験する者は、一、二 について解答しなさい。

中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修 を受験する者は、一、二、三、四 について解答しなさい。

注意事項

- 一、解答時間は、小学校教育コース 教科教育専攻 を受験する者については八〇分、中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修 を受験する者については一〇〇分である。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 四、解答は縦書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

## 非公開

一

次の文章は、朽木祥の原爆児童文学「水の緘黙」<sup>かみ</sup>から抜粋したものである。よく読んで、あとの問いに答えなさい。(三〇点)

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(朽木祥、『八月の光 失われた声に耳をすませて』所収、小学館、二〇一七年、一四〇～一六一ページ、抜粋・一部改変)

注  
入市被曝——原爆投下後、肉親捜しや救援活動などで被爆地に入つて被爆すること。原爆投下後、二週間以内に約二キロ圏内に入つた人びとが入市被曝者として認定されている。残留放射線の害によって多くが犠牲になった。

問一 傍線部 a～e の漢字の読み方を書きなさい。

a 川面      b 会釈      c 気配      d 懐      e 現

問二 次の中から、原爆文学以外の作品を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夏の花      イ 生まれめんな      ウ ふたりのイーダ      エ 黒い雨      オ ウミガメと少年

問三 傍線部①「私はそれがこわい、そういう私は親ではない、人でもない」というあのお母さんの言葉を理解しました」について、どのように理解したのか、説明しなさい。

問四 傍線部②「今、僕が影のように生きている時間よりも、もっと真実なのだ」とはどういうことを表しているか、説明しなさい。

問五 この物語では「名前」が重要な意味を持っている。「僕」にとって「名前」はどのような意味を持つか、根拠を示しながら、あなたの解釈を述べなさい。

問六 「戦争の記憶と言葉」との関係についてあなたが考えたことを、文中から適切な語句や叙述を引用しながら、一五〇字以上二〇〇字以内で書きなさい。

非公開

二

次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。(二〇点)

非公開

非公開

(辻本雅史、『江戸の学びと思想家たち』、岩波書店、二〇二二年、二二〇～二二七ページ、抜粋・一部改変)

注 1 仁齋——伊藤仁齋のこと。なお、その後に出てくる徂徠は荻生徂徠、宣長は本居宣長、篤胤は平田篤胤、梅岩は石田梅岩のことであり、いずれも江戸の思想家である。

2 人倫日用——人倫とは、君臣・父子・夫婦・兄弟・朋友という五種類の人間関係のこと。人倫日用とは、日常生活におけるそうした人と人との関係性のことを指す。

3 イヴァン・イリイチ——オーストリア生まれの哲学者。人間の自立性を喪失させる現代文明を鋭く批判した。彼は学校という制度のなかでは自ら学ぶという行動が喪失させられていることを批判した。

問一 傍線部 a、e の言葉を漢字に直しなさい。

a ヒヤク                      b テイイ                      c ケイシヨウ                      d ショウウチヨウ                      e ジョウタイ

問二 A に入る言葉として、最もふさわしい言葉を、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 基盤                      イ 新興                      ウ 斜陽                      エ 中核

問三 筆者が傍線部①「いま私たちが己の身体に関わる感性を活性化させ、自然とどう関わるか、ということを考える上で、江戸の学びと思想は示唆的である」と考えるのはなぜか、説明しなさい。

問四 傍線部②「その次にやってきたデジタルメディアは、この事態を一変させた」とは、どういうことか説明しなさい。

問五 傍線部③における「情報」の状態を表すのに最もふさわしい言葉を、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 荒唐無稽                      イ 意味深長                      ウ 公明正大                      エ 玉石混交

問六 傍線部④「知の〈外部化〉」と傍線部⑤「〈知の身体化〉」との違いについて論旨を踏まえて説明し、それに対するあなたの考えを二五〇字程度で説明しなさい。

次の古文は『浮繩雅文集』の一節である。よく読んで、あとの問いに答えなさい。(二四点)

## 非公開

(島村幸一ほか、『訳注琉球文学』、勉誠出版、二〇二二年、三四〇ページ、一部改変)

注 1 『浮繩雅文集』——近世の琉球で編纂された、二十九編の和文(擬古文)からなる文集。編者は未詳。

2 思ふどち——親しい者たち。

3 あふきまし——地名であろうが、未詳。

4 さて——ここでは「そういえばそうだった」の意。

5 返す返すも他人ぞかし——ここでは「結局のところ自分は他人なのだよ」の意。経緯を知っていたはずなのに忘れていたという感慨。

6 この一卷——ここでは直前の和歌を指す。

問一 空欄 A・B に入る語として適切なものを、それぞれア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A	ア 枝	イ 心	ウ 袖	エ 眼 <small>まなこ</small>
B	ア あらぬ	イ いはゆる	ウ かかる	エ さらぬ

問二 左の文は、傍線部②「さのみおどろくべきにあらねど」の文法事項について解説したものである。空欄に入る適切な漢数字や語を考えて、入れなさい。なお、(イ)(ウ)に入る語は、それぞれ本文から抜き出すこと。

傍線部②を品詞分解すると(ア)語に分けることができる。この中に助詞は二語あり、「(イ)」は副助詞で、「(ウ)」は接続助詞である。また、助動詞はこの中に三語あり、それぞれを基本形に直すと、出てくる順に「べし」「なり」「エ」である。それぞれの文法的意味は、順に「当然」「オ」「カ」である。

問三 傍線部①「苔の下にもゆかしく思すらん」・③「花ものを言はねば、いかがはせん」を、それぞれ現代語訳しなさい。

問四 傍線部④「形見」には、二重の意味が込められていると考えられる。その二つの意味について説明しなさい。

問五 傍線部⑤「感に堪へずして」とあるが、「感」の内容を、本文の趣旨を踏まえて説明しなさい。

四

次の漢文は江戸時代の儒者が著した、三代將軍徳川家光の側近だった松平信綱に関する逸話である。読んで、あとの問いに答えなさい。なお、漢文については設問の都合上、返り点や送り仮名を省略しているところがある。(一六点)

非公開

(塩谷宕陰(世弘)、『昭代記—台徳大君記』、国立国会図書館デジタルコレクションより原文引用、一部改変)

注 1 世子——跡継ぎ。ここでは家光のこと。 2 乳雀——子持ちの雀。 3 大君——二代將軍徳川秀忠のこと。「大將軍」も同じ。

4 燕室——寢室。 5 勉強——困難に立ち向かい。 6 譙然——どうつという音を立てて。 7 大妃——秀忠の奥方様。

8 竊——こっそりと。 9 目送——(信綱の後ろ姿を)目で追って。 10 孺子——(あの)幼な子。

問一 傍線部①「之」・⑤「之」は、ともに指示語である。それぞれが指示する内容を本文中の言葉で答えなさい。

問二 傍線部②「衆莫敢往」・③「直往」・④「終不改辞」をそれぞれ平仮名のみで書き下し、さらに現代語訳しなさい。

(仮名遣いは歴史的仮名遣い、現代仮名遣いのいずれでもよい。)

問三 傍線部⑥「孺子能如此、後必羽翼吾兒」について、「孺子」「此」「吾兒」が指示する内容を踏まえて、誰のどのような思いが込められているかを説明しなさい。

国語 解答用紙 (前期日程)

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース 教科教育専攻 (表面のみ)

中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修 (両面)

受験番号

得点

一

問一	a	かわも	b	えしゃく	c	けはい	d	ふところ	e	うつつ (各1点)
問二	オ (2点)									
問三	愛しい娘でありながら、原爆によって人としての姿もわからぬほど崩れてくる身体を抱きしめることができない自分を「親ではない、人でもない」と責める「お母さん」と、同じように妹の亡骸を「ヒトの残骸」として「こわくてたまらない」と感じる自分自身とを重ね、愛しくてたまらない肉親の亡骸さえ「こわい」と感じさせるまでに破壊してしまう原爆の恐ろしさについて身を以て直観的に理解した。 (5点)									
問四	原爆の記憶とともに生きることが余りにも苦しく、「僕」は他者にも死者にも、自分自身にも深く閉ざし、「真実」から遠ざかって、すなわち「影のように」生きている。一方で、花緒の柄や、やかんのへしゃげた腹や、ひもだけになったもんぺの切れはしなど鮮やかによみがえってくるイメージには、原爆投下直前まで日常を生きていた人々の暮らしの息づかいがリアルに感じられ、そこから一瞬で壊された人びとの〈生〉の「真実」が立ち上がってくる。 (5点)									
問五	「名前」とは、「僕」にとって生きている価値、存在する価値そのものを意味していると考える。原爆による悲惨な死の姿で「僕の心も頭もいっぱい」で、かつだれ一人も助けることなく、「みんな見捨てて逃げたので」、「僕は僕の名前を思い出すことができないのだ」と語られている。このことが深い傷となり、自分は生きている、存在する価値がないと思ひ込むがゆえに、自分の「名前」すら思い出すことができないのだろう。 (5点)									
問六	戦争の記憶を想起することは、むごたらしい光景とともに、誰も助けられなかった自身の無力さを否応なくつきつけられることとなり、その苦しみの深さゆえに人びとから語る言葉を奪ってしまう。しかし、同様の体験をした人同士が支え合い、記憶を語ることによって、「私ひとりの記憶」は「私たちの記憶」となり、二度と戦争の惨禍を繰り返さない〈言葉の力〉へとつながっていくだろう。 (8点) (採点基準) *文章を踏まえ、「戦争の記憶と言葉」というテーマに向き合い、考えを深めているか。 *文中から適切に語句や叙述を引用し、それを踏まえて自分の考えを掘り下げているか。									

問一	a 飛躍【1点】	b 定位【1点】	c 警鐘【1点】	d 象徴【1点】	e 常態【1点】
問二	ウ【2点】				
問三	江戸の学びや思想が大自然と自己がつながる方法であり、地球環境の危機を他人事ではなく、私たち自身の身体の問題にほかならないと捉える視点と感性をもったものだったという点で、地球環境の危機に直面しているいま参照すべき方向性を示したものだと考えたから。【6点】				
問四	デジタルメディアは、近代に登場したラジオやテレビの電話のメディアが既存の出版メディアと補完・共存していたのは異なり、既存の出版メディアの存在意義を脅かし、メディアの主役の座に置き換わりつつあるほど大きな変化をもたらしたということ。【5点】				
問五	エ【2点】				
問六	<p>知の（外部化）は知が人の身体を離れてつくられることで、（知の身体化）は人が五感をはたらかせ身体を通して知がつくられることである。たしかに、現代ではインターネットで調べると多くのことを知ることができる。しかし、それに頼ってばかりいては五感を働からかせて考えたり、人間の本来の属性に根ざした学びが行われなくなったりするだろう。私は、これからデジタルメディアが発展していったとしても、人が生きていくうえでは、デジタルメディアだけに頼るのではなく、豊かに五感をはたらかせ身体を通して知をつくっていくことも大切であると考える。</p> <p>【10点】</p>				

二二 (小計24点)

問一	A ウ	B エ	②点×2  ←イウ各①点 アエオカ各②点	
問二	ア 八	イ のみ		
問三	① 墓の中でも見たいとお思いいになっているだろう		③ 花はものを言わないので、どうしようもない	②点
問四	桜の花が春の季節の形見だという意味と、桜の花を愛した小椋氏の子の形見だという意味。			②点
問五	桜の花を愛する心の美しさを持っていた小椋氏の子が、まだ花咲く前のつぼみのような若さで亡くなったことについて、物言わぬ花も惜しんでいるだろうと思うにつけても涙がとまらない、という思い。		④点	

四

(小計16点)

問一	① 乳雀	⑤ 信綱	各①点
問二	② 書き下し しゅうあへてゆくことなし	②点	
問三	③ 書き下し よろしくゆくべし	①点	現代語訳 (おまえが) 行くのがよい
	④ 書き下し つひにことばをあらためず	②点	現代語訳 最後まで発言の内容を変えない
	幼い信綱が将来の主君である家光を最後までかばい続けた様子を見て、家光の父である二代將軍秀忠は、信綱がこの忠誠心を持ち続けられ、将来は必ず家光を助けてくれるだろうと確信した。		④点